



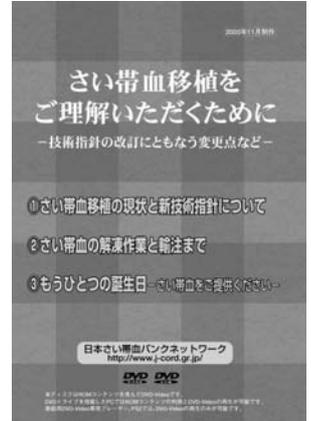
さい帯血バンクNow

第15号

<http://www.j-cord.gr.jp/>



DVDジャケットの表紙
満席になった説明会場



改訂指針を学会で説明

周知用DVD 2000枚が大好評

昨年12月20日、横浜パシフィコにおいて、日本さい帯血バンクネットワークの主催による登録病院医師説明会を開催しました。これは、本年度の国庫補助金に基づく事業で、さい帯血バンクの技術指針が改訂されたことにより、さい帯血移植の現状と内容を移植現場の医師たちにより理解を求め、周知させることを目的に開催されたものです。

この説明会は、わが国の移植医のほとんどが参加する造血細胞移植学会のご協力により学会のプログラムの一環に組み込んでいただき、実施に至ったものです。また、この説明

会のために日本さい帯血バンクネットワークでは「さい帯血移植をご理解いただくために」と題するDVDを制作し、学会参加者全員に配布できるように2000枚を会場受付に準備

しましたが、予想以上の参加で、一部参加者にお渡しできない状況も生まれました。しかし、日本さい帯血バンクネットワークの登録病院各診療科に事前に送付していたため、現実的な問題は発生していません。

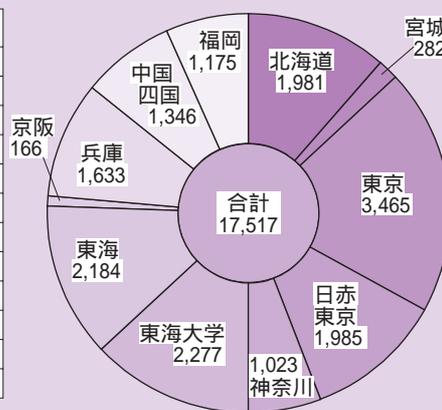
活発な質問相次ぐ

当日の説明会には、約200名の参加があって、会場はほとんど満席となりました。登録病院の医師のほかにも、さい帯血移植に興味を持つ学会参加者も数多く参加して開会前から会場は熱気につつまれました。説明会はず、日本さい帯血バンクネットワークの齋藤英彦会長から挨拶と趣旨説明がありました。引き続き、野村正満事業運営委員長の進行でDVDビデオ「さい帯血移植の現状と新技術指針について」の上映と補足説明、またビデオ「さい帯血の解凍作業と輸注まで」の上映のあと高梨美乃子技術部会長の補足説明がありました。その後、質疑応答となりましたが、会場の移植医たちからは活発な質問が相次ぎ、意欲的な熱意あふれる説明会となりました。

各バンクの移植(供給)数

バンク名	~02年度	03年度	合計
北海道	168(171)	78(82)	246(253)
宮城	1(1)	3(3)	4(4)
東京	162(163)	75(78)	237(241)
日赤東京	62(66)	89(94)	151(160)
神奈川	66(68)	14(16)	80(84)
東海大学	114(122)	85(97)	199(219)
東海	140(142)	42(43)	182(185)
京阪	-(-)	2(3)	2(3)
兵庫	135(144)	73(74)	208(218)
中国四国	24(25)	19(20)	43(45)
福岡	25(28)	10(10)	35(38)
合計	897(930)	490(520)	1387(1450)

保存さい帯血の公開数



【注】 表とグラフのデータは、2003年12月末現在。
表の数字はカッコ外が移植数、カッコ内が供給数。
移植数は使用数であり、複数さい帯血同時移植(2本のさい帯血を同時に移植)が7例行われているため、累計実移植実施数は1380例。
複数さい帯血同時移植は、02年度3月、03年度4月、5月、7月、10月に実施。

「さい帯血」の
バンクと移植

日本の実績 世界が注目

第26回日本造血細胞移植学会を振り返って——総会長・加藤俊一

昨年12月19日と20日の2日にわたって横浜におきまして第26回日本造血細胞移植学会が開催されました。2500人を超える参加者と500題を超える一般演題の申し込みをいただき、学会を主催させていただいた立場として大変光栄であり、感謝の念にたえません。

今回の学会におきましては、さい帯血バンクと骨髄バンクを介しての非血縁者間造血幹細胞移植を中心にしながらプログラムを編成いたしました。

初日の会長シンポジウムとしてさい帯血移植を取り上げ、ニューヨークさい帯血バンクのRubinstein博士と私の司会で、日米欧のさい帯血移植の成績比較と、複数さい帯血移植やさい帯血ミニ移植などの新しい試みについて世界の第一線の研究発表が行われました。シンポジストとして、アメリカからはRubinstein博士、ヨーロッパからはRocha教授、日本からは磯山恵一先生と井関徹先生がそれぞれの国や地域における非血縁者間さい帯血移植の成績を発表しました。その中で、わが国におけるさい帯血移植の成績、とくに東大医科研における成人での成績がずば抜けて良いことに海外のシンポジストから驚異と礼賛の言葉が続きました。

シンポジウム後半ではミネソタのWagner教授から複数さい帯血移植

とミニ移植の成績紹介があり、引き続きわが国の成績が兵庫医大の甲斐俊朗先生と虎の門病院の宮腰重三郎先生から発表されました。わが国における複数さい帯血移植はすでに7例で行われ、そのうち6例が白血病などの再発なく生存中であることが報告されました。また、高齢者においてミニ移植によるさい帯血移植が可能であり、成績も良好であることなどが注目されました。

初日の午後にはRubinstein先生による「さい帯血バンク」というアフタヌーンレクチャーがあり、引き続き西平浩一先生と高梨美乃子先生の座長でさい帯血バンクやさい帯血移植に関するワークショップが行われ、各さい帯血バンクからの報告と討論が行われました。

Rubinstein、Wagner、Rochaの3先生は、口を揃えて「日本のさい帯血バンクとさい帯血移植はすばらしい」と称賛して下さいました。単なる外交辞令ではなく、私たちが築き上げたシステムと移植成果に世界が注目していることを再認識させられました。3先生から帰国直後に賛辞とともに発表について詳しい質問メールがあったことなどからも、彼ら自身が日本から多くのことを学ぼうとしている姿勢がうかがわれます。

日本さい帯血バンクネットワークが参加者に用意した2000枚のDVD

が初日の昼過ぎにはすべて無くなり、多くの方からもっと欲しいというご希望が寄せられています。大変ありがたいお話で、日本さい帯血バンクネットワークの一員としても大成功と満足している次第です。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。(東海大学医学部)

「5周年」へ始動

1999年8月に産声を上げた日本さい帯血バンクネットワークは、今年は設立5周年の節目の年を迎えます。このときに際し、さい帯血バンクのシンボルとなるようなロゴやマークなどを作成するなど、今年は数々の5周年記念事業を計画しています。このため、日本さい帯血バンクネットワークでは設立5周年記念事業実行委員会を組織し、実行委員に鎌田薫副会長、野村正満事業運営委員長、中林正雄事業運営副委員長、木村紀事業運営委員、池淵研二事業評価委員の5名が選任されました。

5周年記念事業の展開にはこれから、企業や団体などの協賛や市民の皆様のお力添えが欠かせません。どうぞ、本誌の読者の皆様にもご理解をいただき、ご支援とご協力をお願いしたいと思います。なお、5周年記念事務局は今後、株式会社セットアップ内に置かれることとなります。詳しくは次号でお知らせします。



すこやかに、幸せに。

明日への夢、描きたい。

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療機器を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。



ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号

「頑張るチャンスをもらった」患者からの手紙 家族と暮らせる幸せ

北海道臍帯血バンクから提供されたさい帯血で移植を受けた患者さんから届いた手紙を紹介いたします。なお句読点、文字遣いともほぼ原文のままです。

健診で異常発見

私は群馬に住む36才の主婦です
私が病気になったのは、息子の2才の誕生日が過ぎ、少したってからでした

33才で結婚をして、子供もでき幸せな生活でしたが、共働きをしていて毎日が時間に追われていました。

会社の健康診断で血液の異常があり、すぐに病院へ行くように言われました

自分でも以前から体調の異変には気づいていましたが、家族の事もあり、どうしても認めたくありませんでした。ただのかぜかと...

すぐに前橋の済生会病院へ行き、病名が判りました

急性リンパ性白血病

私にとって白血病 = 死でした

その日の事はあまり憶えていません

その日のうちにクリンルームに入りました

そして、暗いトンネルの毎日が続きました

私を待っていたのは、変えようがない事実、にげる事のできない現実と孤独感そして死でした。どうして私が... どうして...

ただ涙が出て何も考えられませんでした

最初の一ヶ月半は夜もねむる事ができませんでした

「一緒にいたい」

でも、次第に、息子の事、夫の事、家族の事を思いました。息子に会いたい、一緒にごはんが食べたい、一

緒に遊びたい、歌いたい、おむつを替えてあげたい

一緒にいたい。一緒にいたい。

ただその気持だけで、治療を続けました

先生は最初から私の場合は化学療法より骨髄移植をと導いてくれました

でも、たった一人の妹も、母も私も私には合いませんでした。

骨髄バンクにもすぐに登録しましたが、なかなかドナーは見つかりませんでした。

本当に見つかったです。

そんな時、ちょうど家に外泊していた日の朝、なにげに夫とテレビを見ていました

画面には花屋で1人の女性が働く姿でした

彼女は4年前に白血病になり、やはり骨髄でのドナーが見つからず、臍帯血での移植をした方でした。

私は始めて臍帯血という事を知りました。

それから、夫もいろいろと調べてくれ、担当の先生にも相談をし、色々とおしえて頂きました

骨髄バンクに比べ実績がまだ浅い事、成人向けではない事、当病院ではまだ実績がない事 色々話し合いました、するかしないかは最終的には私の気持ちが問われました。

「やりますか？」と先生の言葉に私は迷いました。が、夫が「お願いします」と一言、私はその言葉ですべてをふっ切れ、ただ家族の為に、子供と一緒にいたいという気持ちだけで、なにが何でも家に帰ると心に強く思い、どんな事でもたえる、たえられると思いました。幸いにも私は小柄で、使用可能な臍帯血がありました。

当日は、担当の先生が直接、北海道まで行って下さいました。

あれから一年が過ぎ、肺炎や水ぼうそうなど何回か入院を繰り返しましたが、今は家族3人一緒にいられます。

全ての人に感謝

本当にありがたいと思います

そして、すべての方に感謝しています。

毎日、病院に来てくれた母、私を支えてくれた夫、私の希望でいてくれた息子、病気の現実を話して、私を常に導いて下さった先生、そしていつもやさしくしてくれた看護婦さん、そして臍帯血バンクの存在

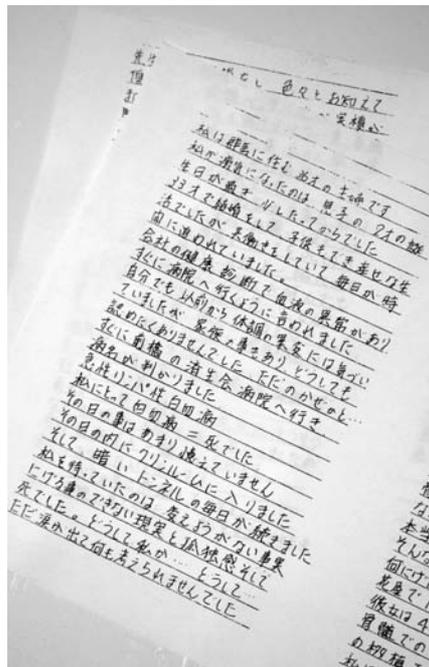
臍帯血バンクの存在が私に頑張るチャンスを与え、強い意志と家族でいられる幸せをくれました。

私はこのチャンスと家族を大切に生きていきたい。

そして暗いトンネルから一人でも多くの方があったかい家族のもとに帰ってほしいと深く思います。

乱文乱字で申し訳ありませんが、私のこの感謝の気持ちをお伝えしたく、書かせていただきました。

最後ですが、家族にいられる幸せをありがとうございました。



自筆の手紙

あんな委員会 こんな部会④ 事業運営委員会



委員長・野村正満

日本さい帯血バンクネットワークの最高意志決定機関は総会です。通常総会は年に2回開催されますが、会

則に総会での決議が必要と定められていない日常の意志決定は、月に1回開催される事業運営委員会がこれを担うことになっています。事業運営委員は日本さい帯血バンクネットワークに参加する11のさい帯血バンクを代表する委員と、いわゆる有識者といわれる委員の23名(2004年1月現在)によって構成されています。

初代委員長は副会長と兼任で鎌田薫氏(早稲田大学法学部教授)が互選されましたが、バリ留学のため2001年9月に私と交代しました。医療に関連する事業を行っているが、事業運営委員長が非医療職であることは日本さい帯血バ

ンクネットワークの大きな特色になっているのかもしれませんが、ところで、ネットワークの発足当初は試行錯誤の連続で、事業運営委員会の中でも議論百出でした。そのまとめ役を担った鎌田前委員長のご苦労は、いかばかりのものであったか察するところです。

その事業運営委員会は日本さい帯血バンクネットワークの発足以来、毎月欠かさず開催されてきましたが、委員会の雰囲気も発足当初から大きく様変わりを見せています。延べで50回目となる昨年11月16日の会議には、こんなこともありました。午後1時半から始まった会議の冒頭、陪席していた齋藤会長から「委員長、高橋尚子選手が今トップを走っているそうです。会議の途中ですが、みんなで応援に行きませんか」と提案がありました。

当日は東京国際女子マラソンでアテネ出場をかけてのレースが繰り広げられていたのです。委員会

は日本赤十字社本社の会議室をお借りして開催していますが、すぐ近くの御成門前がマラソンコースになっているのです。会長提案を受けて委員全員が沿道に出て応援しました。2位を大きく離して先頭を走っていた高橋選手に皆で声をかけて、会議の席に戻ったのですが、そのあと間もなく高橋選手は失速して2位に終わったと聞きました。私たちの応援の仕方がいけなかったのかな、と変な反省もしました。

さて、事業運営委員会は毎回3時間半という時間をかけて話し合いが行われますが、報告事項と協議事項をあわせて議題は毎回15ほどにも上ります。このため、事業運営委員会ですべてを協議することができなくなってきたために、事業運営委員会の中に小委員会や部会を設けて、細部の協議を行うことになっています。常設の小委員会としては広報部会、適応判定委員会、技術部会、技術交流会、移植データ管理小委員会があります。なお、事業運営委員会は公開されていますので、どなたでも傍聴することができます。

3300個保存へ6億2569万円

新年度さい帯血バンク関連政府予算案

いつものように年の瀬も押し詰まった昨年末、平成16年度の政府予算案が決まりました。その中で、さい帯血移植対策予算としては、日本さい帯血バンクネットワークへの補助金(補助先は日本赤十字社)として、総額で6億2569万円となっています。補助金の総額としてみれば、15年度の6億1750万円から微増となっています。しかしながら、今年度に単年度予算として計上されていた6000万円のさい帯血バンクネットワークの体制再構築事業費が全額カットされています。それにもかかわらず、補助金総額が微増している根拠は、次年度からの補助金には今年度日本さい帯血バンクネットワークの会員と

なった京阪さい帯血バンクが補助対象となって、これまでの10バンクから11バンクとなったこと、また今年度の保存さい帯血数が3000個であったのに対し、1割増えて3300個となったことが主な要因となっています。

一方、骨髄移植対策関連の平成16年度予算としては、骨髄移植推進財団と日本赤十字社への補助金を合わせた総額は、12億200万円と今年度予算の12億3500万と比べると微減ということになっています。内訳では財団へは今年度4億3939万円から4億4871万円へとほとんど変化ありませんが、日赤へはDNA検査体制への移行に伴う変更で、7億9275万円から7億5057万円への減額となりました。

た。

なお、骨髄バンクとさい帯血バンクを合わせた造血幹細胞移植対策全体では18億5200万円から18億2800万円へと減額となります。

ご寄付をいただきました

温かいお心ありがとうございます。
井上理恵子様(熊本県) 10万円
吉本美穂子様(兵庫県) 1万円

善意をお待ちしています

日本さい帯血バンクネットワークでは、広く皆様からの善意を受け付けております。ご寄付はすべてさい帯血バンク事業のために使われます。
< 寄付受け付け専用口座 >
郵便振替口座番号: 00180-9-57390
口座名義: 日本さい帯血バンクネットワーク